



11月16日、運用が開始された中継センター

【調査日】平成27年11月16日
 【調査・研修箇所】岩手中部クリーンセンター・遠野中継センター

【参加議員】盛岡グランドホテル 17名

11月16日市政調査会11月例会が行われ、同日運用を開始した岩手中部クリーンセンター・遠野中継センターの視察研修と、盛岡市内ホテルで開催された平成27年度岩手県市議会議員研修会の概要を報告する。

岩手中部を構成する遠野・北上・花巻・西和賀の4市町のごみ処理施設の耐用年数はすでに経過しており、公害のない清潔で快適な住民生活を維持するため、ごみ処理に関する施策の具体化を求められてきた。

今般これらの施設に代わる中部クリーンセンターが年間処理能力55,817トンの大型ごみ処理施設として北上市に完成した。同時に遠隔地である遠野市にはごみ集積の合理化・輸送コストの削減を図るために日量28トン処理能力の遠野中継

センターが落成し同日運用を開始した。この施設は市内の可燃ごみを集積、圧縮し大型パッカー車へ積み込みをする施設である。当然のことであるが落成したばかりの施設で悪臭もなく衛生的にも申し分のない施設である。今後ますます市民にはごみの分別にご協力いただけるよう啓蒙していかねばと感じた。

遠野中継センターの視察研修の後、盛岡市内ホテルで開催された岩手県市議会議員研修会へ13名の議員と3名の議会事務局職員が参加（4名の中部広域行政組合議員はクリーンセンター落成式出席のため欠席）した。

研修会は午後1時30分から始まり、研修会第一部は岩手県復興局長 中村一郎氏が「すきな三陸」を『すてきな三陸』に」と題して

講演し、震災復興に向けた取り組み状況、復興の現状と課題や今後の展望など、震災復興に向けた岩手県の取り組みを話された。

研修会第二部は、テレビ朝日コメンテーターの川村晃司氏が「戦後70年、日本政治の行方」として、自ら中東カイロ支局長を務め、

イラン・イラク戦争を最前線で取材してきた経緯から、現在問題となっている世界情勢など、示唆に富む話を聞くことができた。



県内の議員が一堂に会す研修会風景

新たなごみ処理システムを調査

市政調査会

市民の声を市政へ 市へ要望書を提出



市議会から本田敏秋市長に要望書を提出した

議会では、『市民と議会との懇談会』を平成27年4月21日から23日までの3日間、市内9会場で開催し、市民の皆様から貴重なご意見ご提言を頂きました。そのうち、2つの項目について10月14日、遠野市に「要望書」として提出しました。

市議会からは新田勝見議長、安部重幸副議長、瀧澤征幸議会運営委員長、3人が出席し、新田議長から本田市長に要望書を手渡したあと、今回、市に要望した内容について、説明を行いました。

『市民と議会との懇談会』は、市民から直接お聞きしたご意見ご要望を、議会として市政に反映させるため開催しているもので、今年度は昨年度より39人

多い167人（うち女性32人）の皆様から、114件のご意見ご提言を頂きました。市民の皆様から頂いたご意見ご提言は、議会運営委員会を経て各常任委員会等で慎重に協議し、さらに議員全員協議会で検討し、

①市に対する要望事項
 ②議会の特別委員会の場で協議を行っていく事項
 ③常任委員会で継続して調査研究する事項

今回、市に要望したのは、「子育て支援について」と「除排雪困難箇所への対策について」の2つの項目です。

市議会からの要望を受けて本田市長は、「計画を持ったうえで議会とも相談しながら、市民にも見える形で示せるよう、最大限の努力をしていきたい」と答えました。

要望内容は次のとおりです。

要望事項

1. 子育て支援について

遠野市においては、わらすつこプランに基づき、「子育てするなら遠野」のスローガンを掲げ、少子化傾向に歯止めをかけるべく、様々な施策の実行にも取り組んでいます。今般の市民との懇談会の中で、現在の施策からさらに踏み込んで、保育料の無料化、小・中学生の保護者の負担となる、教科書以外の諸経費の軽減を求める意見がありました。

子育てをする保護者の負担軽減を、当局に



市内の住宅地において、道路が狭いであり、除排雪が困難な箇所が多々あります。このことから、住民が除雪をした雪を一時的に集積する場所を設け、市においては集積場所から重機等で排雪する仕組みを検討されるよう要望します。

また、水路を整備し、雪が流せる融雪溝としての機能が備えられないかの検討を併せて要望します。

2. 除排雪困難箇所への対策について

において検討されるよう要望します。